

幼稚園教員養成課程の学生における模擬授業と 振り返りの意義

Importance in the Review and Trial Lessons for Students in the Kindergarten Teacher Training Course

浅井 泰 詞

Taishi Asai

菅 家 沙由梨*

Sayuri Kanke

Abstract

The purpose of this study was performed to examine the efficacy of review and to obtain basic information for future instruction of physical training for infants by administering a questionnaire survey on the review of trial lessons and instruction-related problems to 120 students in a kindergarten teacher training course. As a result, it was found that many students responded, “I could enjoy actual teaching,” while a few students answered, “I could provide a lesson in accordance with the prepared instruction plan,” or “I was satisfied by my lesson.” The keywords suggested by many students as the “points obtained by review” after the trial lessons included: “safety management,” “flexible approach,” and “communication with infants.” Among the “points to be improved in the future,” “time allocation” was suggested by a significant number of students. These findings suggested that it would be important for the students of the teacher training course to experience several trial lessons, and to review their experiences. Furthermore, it will also be necessary to provide these students with an education that can allow them to improve their instruction skills for childcare, in accordance with the “core curriculum of teacher training course.”

* 菅家沙由梨氏（文化学園大学）は高千穂学会会員ではないが、本研究ならびに本稿の執筆を共同で行ったために共同執筆者として掲載した。

1. 緒言

近年、様々な日常動作の機械化、遊び場の減少によって、運動をする機会が減少し、子どもの運動不足がとりあげられている。それに伴い、子どもたちの運動能力や体力の低下が問題となっている。学校教育の場においては、健康教育の観点から健康の維持・増進、運動習慣や食習慣などの生活習慣の改善を図ることが重要視されている。わが国では 2002 年に健康増進法が施行され、それに基づき 2013 年から「21 世紀における第 2 次国民健康づくり運動（健康日本 21（第 2 次）」（厚生労働省，2013）が実施されている。これにおいても、運動の重要性や運動習慣の見直しなどに力を入れており、子どもの体力向上についても重要な課題となっている。

文部科学省で平成 19 年度から 21 年度に実施した「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」（文部科学省，2011）においても、子どもの身体を動かす機会の減少傾向がうかがえる結果であったことから、幼児期から遊びを含めた多様な動きを経験することや運動量の増加を考えていく必要がある。文部科学省も「幼児期運動指針」（文部科学省，2012）を制定するなど、幼児期の運動意識の向上が取り沙汰されている。これにより、幼稚園や保育園での運動指導が非常に重要なものになってくる。全国の幼稚園を対象に行った健康・体力づくりの意識と運動指導の実態調査（吉田ら，2007）によると、93.0%の幼稚園が何らかの形で健康・体力づくりを心がけていた。保育時間内に運動指導を行っている幼稚園は 74.4%にのぼり、幼稚園教員の指導力が求められている。

保育の領域での運動にあたる部分である身体表現は、かつては「遊戯」という名称で、歌や音楽に合わせて振りをつけた、音楽リズム的な内容であった（岡田ら，1997）。それが 1989 年の幼稚園教育要領の改定により、身体表現あそびとして領域「表現」の中に盛り込まれ、現在は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを内容とし、豊かな感性を持ち、表現する喜びを味わうことにねらいが置かれている（文部科学省，2008）。

幼稚園教員養成校における幼児体育の授業においては、学生の指導技術を身に付ける上で指導実践を行うことが必要となる。最終的には教育実習などの学外での実習で行うことになるが、事前に学内での授業において他の学生を幼児に見立てた模擬授業を体験しておくことが必須である。先行研究においても模擬授業の重要性が確認されており（木村，2015；鴈野，2016）、その中でも特に模擬授業後に行う「振り返り」がその後の学生の指導技術の向上に有効であることが示唆されている（高原ら，2014；高原ら，2016）。

そこで本研究では、模擬授業の「振り返り」に着目し、幼稚園教員養成課程の学生を対象に、模擬授業後の振り返りおよび指導課題について調査することで、振り返りの有効性を検証すること、さらに今後の幼児体育指導のための基礎資料を得ることを目的とした。

2. 方法

（1）調査対象

都内大学に所属する幼稚園教員免許取得希望者である学生（以下学生）で、教職科目の「幼稚園教育法（身体表現）」を受講し、研究の同意が得られた120名を対象とした。調査は2017年6月に実施し、対象者には、研究者にて作成した自己記入式質問紙調査を実施した。

（2）調査内容

質問内容は「幼稚園教育法（身体表現）」の授業で実施した模擬授業後に、①事前に準備した指導案どおりに進めることができたか、②自分の中で満足できる授業を行うことができたか、③指導実践は楽しかったか、の3項目について調査した。また、指導実践をふりかえり、④授業実践を行った後気付いた点、⑤授業実践で躓いた点や今後改善すべき点、を自由記述にて調査した。

(3) 倫理的配慮

本調査は匿名で行い、調査用紙に調査目的を明記の上、実施時に利用方法の説明、任意調査であり回答は強制でないことを研究対象者に説明した。参加・不参加は自由であり、不参加であっても不利益は生じないこと、また成績への影響はないことを説明した。その後、質問紙を研究対象者全員に配布し、自己記入式調査用紙の記載をもって、研究の同意を得ることとした。

3. 結果

(1) 模擬授業に関するアンケート調査

模擬授業実施後に質問した3項目について、アンケート結果を図1に示した。「事前に準備した指導案どおりに進めることができたか」という質問の回答は、「そう思う」13.9%、「まあまあ思う」73.0%、「あまり思わない」13.1%、「まったく思わない」0.0%であり、準備した指導案どおりに進めることができた学生は13%と僅かであった。「自分の中で満足できる授業を行うことができたか」という質問の回答は、「そう思う」17.2%、「まあまあ思う」59.0%、「あまり思わない」23.0%、「まったく思わない」0.8%であった。「指導実践は楽しかったか」という質問の回答は、「そう思う」43.4%、「まあまあ思う」50.0%、「あまり思わない」5.7%、「まったく思わない」0.8%であり、「そう思う」と「まあまあ思う」を合わせると90%を超える結果となった。

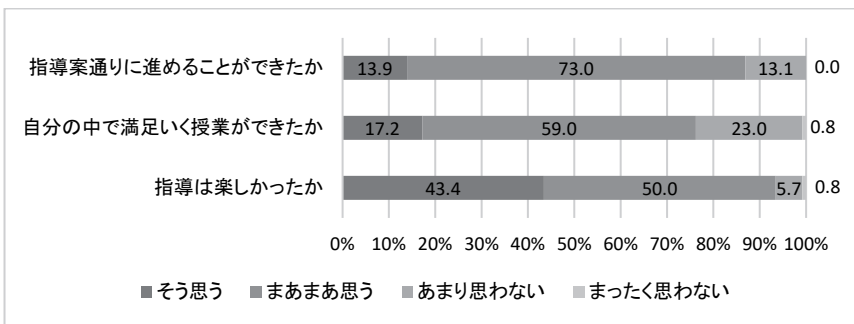


図1 模擬授業に関するアンケート調査

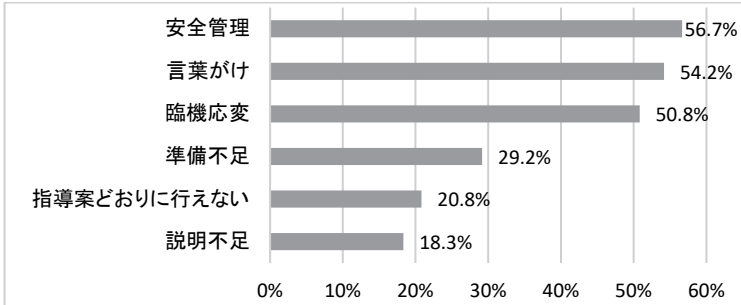


図2 授業実践を行った後気付いた点

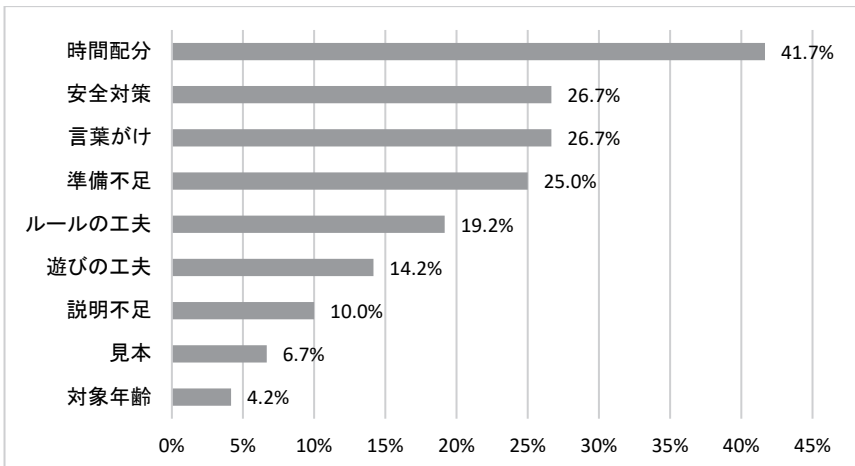


図3 授業実践で躓いた点や今後改善すべき点

(2) 授業実践を行った後気付いた点

授業実践を行った後、振り返りを行って気付いた点を自由記述で回答してもらい、その中から多く記述されていた内容をキーワードとして抜粋した。その結果を図2に示した。「安全管理」に関する内容が56.7%、「言葉がけ」が54.2%、臨機応変が50.8%、ついで「準備不足」、「作成した指導案どおりに行えない」、「説明不足」であった。なお、「安全管理」の中には「注意のし忘れ」、「自身の立ち位置」などの言葉を含んでおり、「準備不足」の中には「練習不足」や「行う予定の内容を忘れてしまった」などの内容を含めて算出した。

(3) 授業実践で躓いた点や今後改善すべき点

振り返りによって気付いた、授業実践で躓いた点や今後改善すべき点の回答をキーワードとして抜粋した結果を図3に示した。多く回答されていた内容は「時間配分」についてで、41.7%であった。「安全対策」および「言葉がけ」に関する内容がそれぞれ26.7%、「準備不足」が25.0%、次いで「ルールの工夫」、「遊びの工夫」、「説明不足」、「見本」、「対象年齢」であった。

4. 考察

(1) 模擬授業に対する意識

本研究は、幼稚園教員養成過程の学生を対象に、模擬授業後の振り返りおよび指導課題についてアンケート調査を行った。幼稚園教員養成課程における身体表現指導の授業では、直接幼児指導するための専門的知識と指導力を身につけた実践力のある教員を養成することが求められている(文部科学省, 2017)。その中で、今回の模擬授業を通して、「指導案通りに進めることができた」と答えた学生は13.9%、「自分の満足いく授業ができた」と実感した学生は17.2%となり、自身が理想としている模擬授業が実践できなかつたと感じた学生が多かつた。模擬授業を経験したほとんどの学生が、自身の授業の改善が必要だと実感していることになる。しかし、「指導は楽しかつた」と答える学生は多く、実際に体験をして幼児体育指導の難しさを痛感しつつも学習意欲を失わず、改善点に目を向けていることが分かる。身体表現に関する学生の意識を調査した先行研究によると、身体表現は楽しい分野であり、幼児期には必要だと考える学生が多いが、同時に「難しい」という印象も多く、前向きな意欲は持ちつつも、苦手意識を抱いてしまいがちな傾向があることが報告されている(弓削田, 2009)。また、多胡(2008)による保育者の身体表現遊びについての意識調査では、身体表現は楽しいコミュニケーションツールである一方、指導実践内容のレパートリーが乏しく、展開方法に悩む保育者が多いことが報告されている。このことから身体表現指導においては、指導課題が多く、保育者自身の指導実践の積み重ねが幼児指導の資質の向上に繋がる可能性が考えられる。今後は

模擬授業を通して、指導案作成などの授業の立案能力および授業の実践能力を育成していくことが重要となってくる。

(2) 振り返りの視点

模擬授業の振り返りにて、気付いた点として最も多く記述されていたことは、「安全管理」であり、次いで「言葉かけ」、「臨機応変」についてであった。学生の56.7%が安全管理について取り上げ、その中では、準備運動時や身体を動かす時、走る時などの「周囲との間隔」についてや、注意のし忘れや指導中の自身の立ち位置などの「指導者の注意不足」についてなど、多方面にわたる安全管理について取り上げられていた。「指導に夢中になってしまい、周囲の子どもたちの様子を見る余裕がなかった」という意見も多く見られた。また、今後改善すべき点においても、26.7%の学生が安全対策について取り上げており、学生は幼児指導を行う上で、「安全管理」の視点に関する意識が高いと言える。先行研究においても、幼児指導では予測できない幼児の行動が多くあること、さらにその後の課題として、安全対策について意識して指導しても克服することは簡単ではない、としており(高原, 2014)、幼児教育は、予測がしづらい中で楽しく安全に活動する必要がある、繰り返し指導実践を行うことで、安全管理を行えるように努力していくことが重要であると考えられる。

「言葉かけ」については、54.2%の学生が取り上げていた。遠藤(2006)の行った調査によると、幼児の身体表現における指導が難しい内容として、言葉かけが最も難しいとしている。学生からも、「自身の伝えたい内容に対する言葉が出てこない」、「子どもの状況に合わせた声かけができなかった」といった意見が多くみられ、先行研究と同様に言葉かけの難しさがあげられている。しかし、遠藤(2014)は、幼児に対する保育者の柔軟な言葉かけが重要であると報告している。言葉かけにより、子どもが遊びに安心して参加できる基盤が作られることや、幼児に質問することで幼児に考える機会や応える機会を与えることができることなどがあげられる。これらにより、幼児が表現しようとする意欲を高めることができるとされていることから、学生に身に付けさせていくことが求められる。

「臨機応変」については、50.8%の学生が取り上げていた。その中では、「予定の時間通りに進まなかった」、「子どもの人数に合わせた内容に変更した」、「子どもたちの予想していない動きに対応できなかった」などの意見がみられた。幼児指導を行うにあたり、幼児の突発的な行動や発言、その時の子どもの様子や遊びの発展に応じて、どんな場面でも臨機応変に対応していく力は求められる。また、授業実践で躓いた点や今後改善すべき点の回答からキーワードを抜粋した中で多く回答されていた内容は「時間配分」についてで、41.7%であった。「予定していた時間より早く終わってしまい、急遽手遊びを入れた」、「時間が長くなってしまい、まとめの言葉が言えなかった」などの意見が多かった。時間配分においても、その場の状況に合わせて臨機応変に対応していかなければならない。子どもの人数や教材によっても時間が変わるため、多様な状況を想定していくこと、さらには状況に合わせた判断ができるように指導力を向上させる必要がある。そのためには、指導実践後の振り返りを行うことで自身の指導の反省点を認識し、繰り返し反復練習を行い、経験を積むことが大切であると言える。先行研究においても振り返りが有効であることが示唆されている（高原ら，2014；高原ら，2016）ことから、模擬授業と振り返りを繰り返すことで、学生の指導力を向上させることができる可能性がある。そのためには、模擬授業をできるだけ多く体験できるような授業プログラムを組み、学外での実習、さらには教員として現場で指導する前に多くの経験を積む必要があると考えられる。

5. まとめ

幼稚園教員養成過程の学生を対象に、模擬授業後の振り返りおよび指導課題についてアンケート調査を行った結果、「指導実践は楽しかった」と回答した学生は多かったが、「事前に準備した指導案どおりに進めることができた」、「自分の中で満足できる授業を行うことができた」と回答した学生は少なく、自身の指導に満足できていない学生が多かった。指導の現場においては、その場の状況に合わせて、臨機応変に対応していく力が重要となってくる。これらの指導

力を身に付けさせるため、教員養成過程の学生においては、複数回にわたる模擬授業の経験が必要であるとともに、振り返りが重要であることが考えられる。さらには、「教職課程コアカリキュラム」に準じ、保育内容指導を改善する視点を身に付けさせる教育を行っていく必要がある。

本研究では自身の振り返りによる気づきや改善点などについてのみ調査した。今後はグループワークなど、振り返りの中で他者との討議を重ねることで、自身だけでは気付かない点に目を向けることができる可能性がある。また、今回は、一度の振り返りについて調査した。さらに今後は、模擬授業を繰り返し行い経過を調査していくことで、更なる振り返りの有効性について検証することができる可能性がある。

参考文献

- ・遠藤晶 (2006) 「幼児の身体表現の指導に関する保育者の意識について—身体表現の指導に関する困難さについてのアンケートの検討を通して—」, 『武庫川女子大学紀要 (人文・社会科学)』, Vol.54, pp.91-99.
- ・遠藤晶 (2014) 「身体表現遊びにおける保育者と幼児の相互作用を高める指導：保育者の「言葉かけ」に着目して」, 『教育学研究論集』, Vol.9, pp.1-8.
- ・鴈野恵 (2016) 「大学における日本語教員養成副専攻課程の学びの様相に関する考察：模擬授業のふりかえりシートの抽出語分析」, 『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』, Vol. 11, pp.1-13.
- ・木村重房 (2015) 「授業力育成について (実践報告)」, 『総合教育研究センター紀要』, Vol. 14, pp.71-77.
- ・厚生労働省 (2013) 「21 世紀における第 2 次国民健康づくり運動 (健康日本 21 (第 2 次))」, http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html (2022/12/13)
- ・文部科学省 (2008) 「幼稚園教育要領」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/ (2022/12/13)
- ・文部科学省 (2011) 「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」, http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/youjiki/index.htm (2022/12/13)
- ・文部科学省 (2012) 「幼児期運動指針」,
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319192.htm (2022/12/13)
- ・文部科学省 (2017) 「教職課程コアカリキュラム」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf (2022/12/13)

- ・岡田正章・千羽喜代子他編（1997）「現代保育用語辞典」、『フレーベル館』， p432.
- ・多胡綾花（2008）「保育者の「身体表現あそび」についての意識調査」、『湘北紀要』，Vol.29, pp.43-54.
- ・高原和子・小川鮎子・瀧信子・矢野咲子・下釜綾子（2014）「幼児の身体表現指導における指導実践後のふりかえりの有効性」、『福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編』，Vol. 15, pp. 89-95.
- ・高原和子・瀧信子・矢野咲子（2016）「保育内容（表現）身体表現指導における模擬保育後のふりかえりに関する一考察」、『福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編』，Vol. 17, pp. 23-28.
- ・吉田伊津美・杉原隆・森司朗（2007）「幼稚園における健康・体力づくりの意識と運動指導の実態」、『東京学芸大学紀要. 総合教育科学系』，Vol. 58, pp.75-80.
- ・弓削田綾乃（2009）「幼児の身体表現に関する学生の意識と実践についての一考察」、『浦和論叢』，Vol.41, pp.135-146.